

審査会会長のコメント

今年度の地域まちづくり活動助成金の募集も、前年度に続いて新型コロナウイルスの影響でみなさんの活動や申請を心配せざるをえない状況となりましたが、さまざまな工夫を凝らした活動やその計画を盛り込んだ助成申請が集まり、審査員はじめ関係者一同たいへん感動しました。東大阪市におけるまちづくり活動へのみなさんの熱意、そしてこれまでの地道な活動が地域に根をはっていることを、あらためて認識させられました。

一方、なかなか収束しないコロナ禍の下、痛恨の思いでイベント開催を中止したり、企画を断念せざるをえなかった活動もたくさんあったことは間違いなく、関係者のみなさんの悔しい気持ちや、勇気ある決断にも私たちは思いをはせています。コロナ禍が収束しても、そっくりそのまま以前の状態に戻るのではなく、新たな生活様式や感覚を持った社会に変化していくはずですので、それを踏まえた今後の活動のあり方や方法などを、今の内に考え、準備をすすめていただくことを期待しています。

さて、今回の募集には上限 20 万円とする「スタート支援部門」に 10 件、上限 70 万円とする「事業チャレンジ部門」に 3 件の応募がありました。やはりコロナ禍以前にくらべると申請数はかなり少なめではありますが、人が集まる活動が新型コロナウイルス感染症対策の観点からさまざまに制約される中では、よく集まったのではないかと思います。もちろん、その対策が計画されているかどうかも審査の重要な確認事項となりましたし、さらにコロナの影響に

よって予定していた活動が難しくなった場合の代替案などについても確認いたしました。そういう条件もクリアした申請が集まりました。

結果として、申請のすべてが採択となりましたが、減額となったものや、条件が付いたものもあります。これは活動の意義や内容に対して評価したのではなく、国民、市民から徴収された税金から出る助成金であるということから、それにふさわしい支出であること、あるいはできるだけ効率的にお金を使っただけという観点から審査したものです。採択され、助成金を受けられる団体におかれましては、その活動に市民から期待がかけられていると同時に、厳しい目が注がれるということも自覚して事業を進めていただければと思います。

わたしたちの社会や生活は持続されねばなりませんし、まちづくり活動もその生活の中に根をはり、脈々と次の世代に受け継がれていかねばなりません。コロナ禍に屈することなく、そして油断することなく、このまちづくり活動助成金を活用され、活動に取り組まれることを願ってやみません。

東大阪市地域まちづくり活動助成金 審査会会長

吉田忠彦